

港町

回覧

比類なき映画体験。ドキュメンタリーの驚天動地。



(C) Laboratory X, Inc.

監督・製作・撮影・編集: 想田和弘(そうだかずひろ)

1970年栃木県足利市生まれ。東京大学文学部卒。スクール・オブ・ビジュアル・アーツ卒。93年からニューヨーク在住。映画作家。台本やナレーション、BGM等を排した、自ら「観察映画」と呼ぶドキュメンタリーの方法を提唱・実践。

監督作品に『選挙』(07)、『精神』(08)、『Peace』(10)、『演劇1』(12)、『演劇2』(12)、『選挙2』(13)、『牡蠣工場』(15)があり、国際映画祭などでの受賞多数。著書に「精神病とモザイク」(中央法規出版)、

美しく穏やかな内海。小さな海辺の町に漂う、孤独と優しさ。やがて失われてゆくかもしれない、豊かな土地の文化や共同体のかたち。そこで暮らす人々。静かに語られる彼らの言葉は、町そのもののモノローグにも、ある時代のエピローグにも聞こえる。そして、その瞬間は、不意に訪れる……。

監督は、イタリア、カナダ、中国などでレトロスペクティブが組まれるなど、国内外で高い評価を受ける映画作家・想田和弘。ベルリン国際映画祭2018への正式招待が早々と決まった本作は、作品を重ねるごとに進化を続ける「観察映画」の新境地であり、同時に、現代映画のひとつの到達点である。しかし、我々は、この映画体験の美しさと比類のなさとを語る言葉を未だもてずにいる。あなたは、どうか？

人の営みというものを成り立たせている根幹のサイクルを、これでもかという丁寧さで「観察」してゆくカメラ…ミクロからマクロを浮き上がらせる視点の鋭さは相変わらず流石！というほかないが、今回の作品ほど、切り取られた「その時間」の絶対的なかけがえなさと、儚さを思い知らされたことはなかった。ほとんど神話的と言っていいような余韻を残す、これは間違いなく想田さんの新境地！

ライムスター宇多丸ラッパー／ラジオパーソナリティ

2024年 5月19(日)

会場: 守谷市中央公民館 (もりりん中央) ホール

開演: 午前9時30分(開場9時): 午後1時30分(開場1時)

定員: 各350名

料金: 500円

(上映時間: 122分)

鑑賞をご希望の方は右記のQRコードから事前登録をお願いします。

なお、最新情報は次のURLのサイトで確認して下さい。 URL: <https://www.sungaku.net>

問合せ先 E-MAIL: yuan28003@gmail.com TEL: 080-3082-1635



主催／守谷市文化協会「映画・講演の会」 後援／守谷市教育委員会

守谷市中央公民館は、つくばエクスプレス・関東鉄道常総線「守谷駅」から徒歩約8分です。駐車場は台数に限りがありますので、極力公共交通機関での来場をお願い致します。